

1977 ビッグセダン 4リットル

気分はマジに、DTMレーサー、
定番に飽きたら、カッコで、
走りを主張したっていい!

春にはブロアム目の
メルセデス風バージョン登場!

PART
2



TEXT

トリアルY33グロリアDTMバージョン

もっさりしたY33グロのボディに量感を与えながらもシェイプアップ。フロントマスクは角目になるはずだったが、実はサイズやランプまわりの形状などが微妙に違い、単純に流用すればいいってわけじゃないことが判明。完成が春に持ち越されたのだ。でも、丸目のままだもけっこう、決まっ

いでしょ! ちなみに、3月末にはとりあえずFバンスポ/Sステップ/Rバンスポの3点キット(リヤウイングはオプション)が発売予定。角目キットも販売を前提として、鋭意開発中だ。

もちろん、走りを意識して造られているだけに、カッコだけじゃなくエンジンにもキッチリ手が入れられているが、パワーは350psに止められている。その気になれば400psは愚か、500psだって容易に狙えるクルマなのだが、あえてノーマルの30%アップ程度に止めたのは、「街中で普通に乗り回して、あくまでもアダルトにとぼす」と言うコンセプトだからだ。それでも280km/hはゆうに出

るのだ。で、このトリアルのY33グロリアは、その名の通り、DTMマシンをイメージして造られた、まさに走るためのビッグセダン。すでに、東京オートサロンやオートメッセ大阪で、見た人もいるだろうが、他のビッグセダンとはひと味違ったその姿は、まさに、斬新そのもの。予定ではフロントマスクをブローアムタイプに変更して、まんまDTMベンツ風になるはずが、時間の都合で間に合わなかったのが惜しいが、リヤの巨大なウイングからかもしだされる雰囲気は、明らかに定番とは違う凄味を感じさせてくれる。この手のドレスアップは、まかり間違えば暴走族イメージに陥りやすいのだが、あからさまにDTMマシンをイメージさせることで、紙一重でうまく切り抜けている。この辺は、トリアルのセンスの良さと言えよう。

ビッグセダンのドレスアップの定番は、なんとと言っても、「迫力」、「押し出し感」、そして「豪華さ」がメインとなっている。元々優雅に乗るためのものだから、それは当然と言えば当然だ。が、海の向こうでは、ヨーロッパ版ビッグセダン(……と日本人がイメージしている)ベンツやBMW、そしてオペルなんかで、エンジンに走りを楽しんでいるヤツらがいる。あの有名な、DTMレースがいい例だけど、彼らはクルマをあくまでも走るための道具として捉え、持ち前の大排気量から得られるビッグパワー&トルクを武器に、軟弱なスポーツカーを追い回すことに生き甲斐を感じているのだ。

PHOTO: 稲田浩章 (テツインタープレス)